

長井市公共複合施設建設整備基本計画
《案》

平成30年 月



長 井 市

目次

第1章 計画の前提条件整理	1
1. 基本計画の趣旨と位置付け	1
(1) 計画策定の趣旨.....	1
(2) 基本計画の位置づけ.....	2
2. 長井市を取り巻く現状と課題.....	3
(1) 長井市の現状と課題.....	3
(2) 公共複合施設の必要性と整備目的.....	4
(3) 読書環境の現状と課題.....	8
(4) 子育て環境の現状と課題.....	10
3. アンケートによる要望内容	11
4. 検討委員会での意見交換	11
第2章 計画の基本的な考え方	12
1. 施設の基本方針	12
(1) 公共複合施設の基本方針.....	13
2. 施設の機能	17
(1) 多機能型図書館の機能.....	18
(2) 子育て世代活動支援センターの機能.....	21
(3) 共有機能.....	23

第3章 公共複合施設の施設計画…………… 24

1. 施設整備の配慮点…………… 24
2. 施設の概要 …………… 25
 - (1) 施設延べ床面積…………… 25
 - (2) 事業費…………… 25
 - (3) 機能図…………… 25
 - (4) 想定面積表…………… 26
3. 建設予定地について…………… 27
 - (1) 建設予定地とまちの関連…………… 27
 - (2) 建設予定地の特徴…………… 29
4. 建設予定地の配置計画 …………… 31
5. 構造計画 …………… 32

第4章 運営・事業手法の検討…………… 34

1. 運営の基本的な考え方…………… 34
2. 建設手法・管理運営形態の考え方 …………… 35
3. 施設整備スケジュール …………… 36

第1章 計画の前提条件整理

1. 基本計画の趣旨と位置付け

(1)計画策定の趣旨

近年の急速な少子高齢化や人口減少、経済のグローバル化、情報通信技術の高度化などにより、社会環境が大きく変化しています。この様な時代の流れの中、長井市においても、人口減少や地域経済縮小への対応、コミュニティ機能維持の対策など、持続可能なまちの形成が課題となっています。長井市では平成26年3月『長井市第五次総合計画』において、まちの将来像を「みんなで創る しあわせに暮らせるまち 長井」とし、目標の達成にむけた重点戦略を掲げました。

一方で、平成26年5月に日本創成会議が発表した20～39歳女性の将来推計人口を示した「消滅可能性都市896」のリストは日本中に衝撃を与え、「子育て」に対する重要性はますます大きな課題となってきています。

これらを踏まえ、市では「長井市子ども・子育て支援事業計画」「長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」「長井市教育振興計画」「長井市中心市街地活性化基本計画」などの重要計画が策定されました。平成28年には、「公共施設等整備計画」にて多機能型図書館と屋内児童遊戯施設等の前期5年以内の整備が計画されています。

平成29年には“安心して子どもを産み育て、子どもが健やかに成長できるまち”の基本理念に基づいた「子育て応援施設整備基本構想(H29.3)」と、“<しあわせ>なまちづくりを支える多機能型図書館”の基本理念に基づく「公共複合施設／図書館部分整備基本構想(H29.7)」が策定され、多機能型図書館と子育て世代活動支援センター^{*1}等を公共複合施設として計画することになりました。

中心市街地活性化への寄与を目指す本施設は、国土交通省の都市再生整備計画事業（都市再構築戦略事業）の活用を想定しており、「多機能型図書館」は立地適正化計画の核となる中心拠点活動施設^{*2}として、また「子育て世代活動支援センター」は高次都市施設^{*3}として位置づけられています。

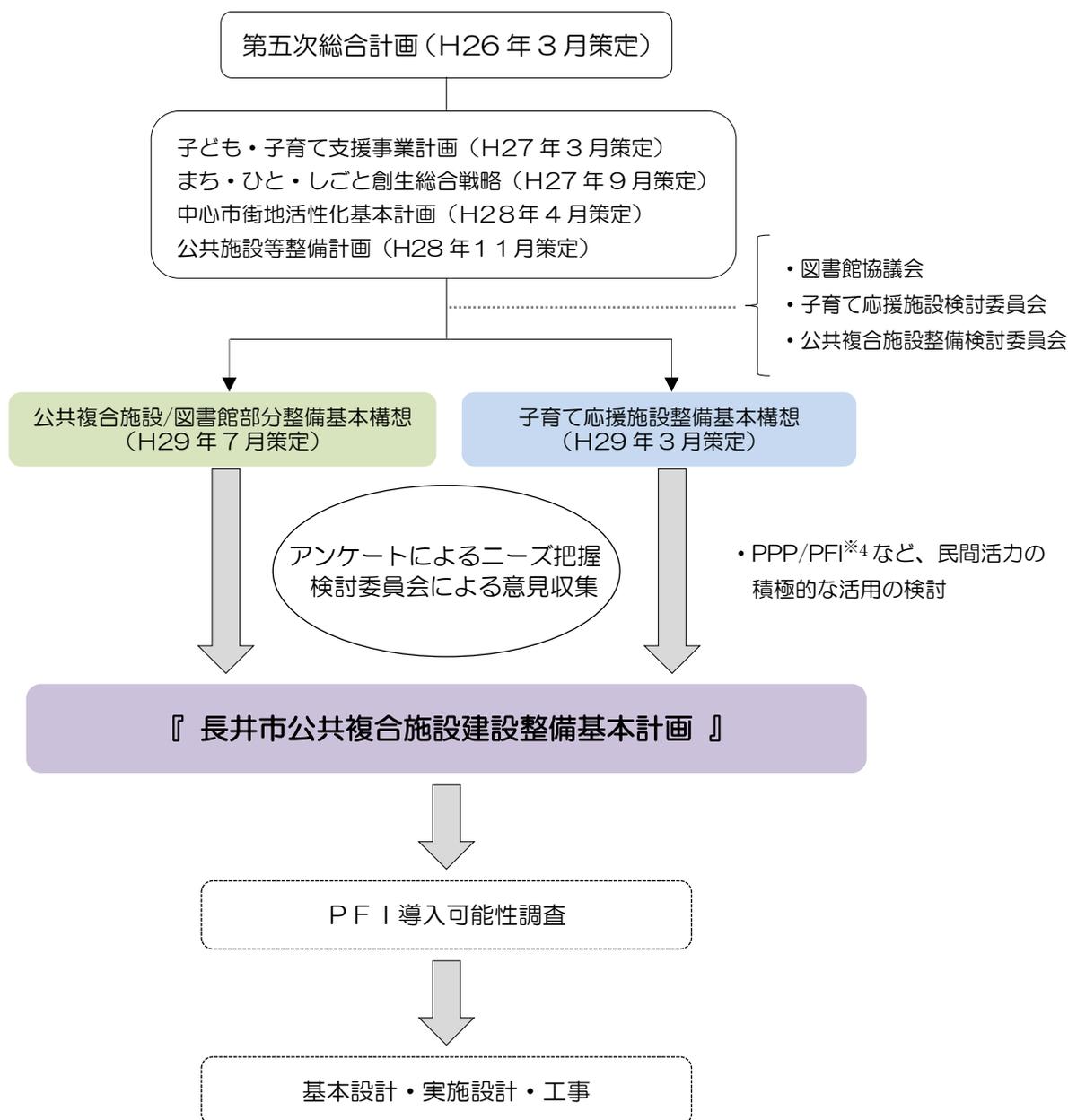
※1:子育て世代活動支援センター：都市再生整備計画事業に基づく、行動が制約される乳幼児等を抱えた世代の、まちなかでの文化活動や購買活動等を促進するための拠点となる施設。

※2:中心拠点誘導施設：都市再生整備計画事業に基づく、中心拠点区域内の特定の施設であり、立地適正化計画の誘導施設として位置づけられたもの。

※3:高次都市施設：都市再生整備計画事業に基づく、快適な歩行者空間を形成し、人の流れを地区内に呼び込むことによる集積の促進、公共的に利用されるホールや会議場、展示場等の導入による文化・交流機能の付与など、様々な角度から魅力と活力に満ちた都市拠点の整備を推進しようとするもの。

(2)基本計画の位置付け

『長井市第五次総合計画』をはじめとする上位計画を基に策定された「多機能型図書館」と「子育て世代活動支援センター」の基本理念を具現化するため、これらを一体の施設とした「公共複合施設」として基本計画を策定します。



※4:PPP/PFI：公民が連携して公共サービスの提供を行う手法を PPP(パブリック・プライベート・パートナーシップ)という。PPPのうち、代表的な手法の一つを PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)という。

2. 長井市を取り巻く現状と課題

(1) 長井市の現状と課題

【地勢・交通】

長井市は山形県の南部、置賜地方に位置する総面積 214.69 km² の小都市で、西は朝日山系、東は出羽丘陵に挟まれ、その間を南北に最上川が貫流する長井盆地に位置しています。長井盆地は南側を米沢盆地に接し、その広さは米沢盆地に比べて約 1/3 程度です。長井市の面積のうち、森林が占める割合が 68.2%、農用地が 14.8%、都市的利用が 12.8% です。また、人口集中地区（DID）が占める割合はわずか 1.7% にあたる 3.67 km² しかなく、都市機能がコンパクトに集中している状況です。

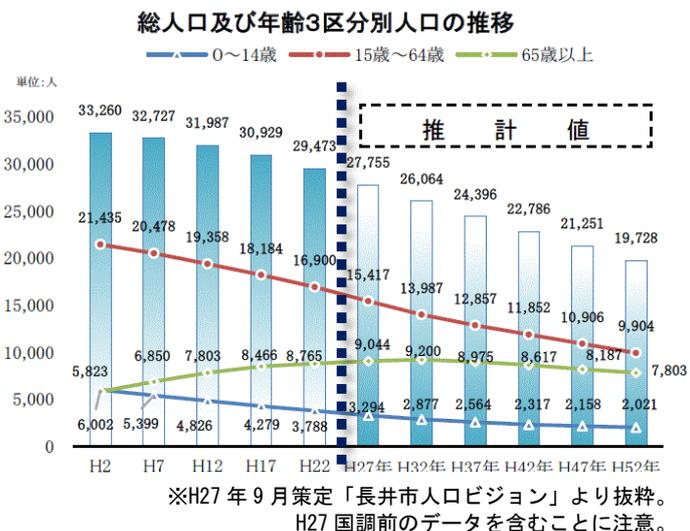
長井市には国道が 2 本（287 号、113 号）、ローカル鉄道が 1 系統（山形鉄道フラワー長井線）ありますが、空港、高速道路、新幹線といった高速交通網はありません。高速交通網のうち、高速道路と新幹線は米沢市を中心とした東置賜で発展していますが、長井市を中心とした西置賜には皆無の状況です。

【人口状況と将来予測】

長井市の人口は平成 27 年の国勢調査では 27,757 人で、これより 30 年前にあたる昭和 60 年の 33,490 人と比べて 17.1% の減少となっています。山形県内の人口を見てみると、平成 27 年の国勢調査では山形県全域が 1,123,891 人で、うち、置賜地方全域では 214,975 人（全県人口の 19.1%）です。米沢市を中心とした東置賜の人口が 157,871 人（置賜全域の 73.4%）に対し、長井市を中心とした西置賜が 57,104 人（同 26.6%）となっており、置賜全域の人口の 3/4 が東置賜に偏っている状況です。

長井市の将来の人口予測については、少子高齢化を伴った人口減少に突入していくことが確実視されています。現在の 2018 年から 22 年後の 2040 年の人口は、社人研の推計値では 19,728 人、平成 27 年 9 月策定の長井市人口ビジョンの目標値では 21,939 人を設定している状況です。

当市の人口減少の原因は、若年層と子育て世代の流出による「社会減」が顕著で、「社会減」の原因は、進学その他、仕事の種類や住みたくなる都市機能が乏しいこと、市内および西置賜地域内に人が集い、滞在して楽しい機能・施設が乏しいことなどがこれまでの市民アンケートで挙げられています。



(2) 公共複合施設の必要性と整備目的

【人口減少を食い止めるために】…「総合戦略」「子育て応援施設整備基本構想」との関連

平成27年9月に策定した「長井市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、基本目標である「若い世代の結婚、出産、子育ての希望をかなえる」まちづくりを実現するために、市のリーディングプロジェクトとして、「子育てワンストップサポート体制^{※5}の充実（子育て支援のための多機能な複合施設の整備）」を掲げています。

子育てワンストップサポート体制の整備

（※総合戦略概要版より抜粋）

「ここに来れば親は安心、子どもは楽しい」環境の整備

- ・ 出産から子育てまでトータル支援する子育て世代包括支援センター^{※6}の整備
- ・ 子育ての悩み相談窓口、一時託児所、医療施設の集積
- ・ 季節や天候に左右されずに利用できる屋内軽運動施設
- ・ カフェ施設や教育電子情報が整備された多機能型図書館など

このリーディングプロジェクトは、長井市の人口減少を食い止めることを目的とし、出産・子育てしやすい環境を整えることで出生率を高める効果を期待するものです。また、単なる子育て支援施設ではなく、**娯楽性のある施設を整備することで、市民だけでなく市外からの交流人口を増やすことも期待して設定されたプロジェクト**です。

この総合戦略でのリーディングプロジェクト設定を受け、平成28年度には庁内及び市民による検討委員会を組織しました。検討委員会では、「子育て支援の施設と図書館が連携し、互いに相乗効果を生み出し、共用スペースを活用していくべき」といった意見や、「子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が交流できる施設であればよい」との意見が出され、類似施設の視察を経て、平成29年3月に「子育て応援施設整備基本構想」を策定しました。

【中心市街地活性化のために】…「中心市街地活性化基本計画」との関連

平成28年4月に策定した「長井市中心市街地活性化基本計画」では、市民アンケート調査を実施し、**子どもが遊べる空間や憩いの場所を増やすこと、趣味の活動や地域活動しやすい環境を整えること**などが要望として挙がっています。

【中心市街地活性化基本計画アンケート調査より】

- ・ 集客力のある施設を整備し、観光サービスの充実により観光客を増やす
- ・ 子どもが遊べる空間や憩いの場所を増やし、暮らしに潤いを与える環境を充実させる
- ・ 趣味の活動や地域活動しやすい環境を整え、コミュニティの形成を促進する

※5:子育てワンストップサポート体制：妊娠・出産期から子育て期にわたって、一つの窓口で継続的に支援する体制
子育てワンストップサポート（H27 総合戦略策定時での定義）

※6:子育て世代包括支援センター：対応する行政機関や部署が分かれていた妊娠から出産、子育てまでの支援について、関係機関等が連携しながら担当の保健師等が切れ目なく支援できる機能を持つ体制や施設。長井市では「すまいるる一む」として保健センター健康課内に設置している。

また、この市民ニーズを受け、中心市街地活性化基本計画では3つの基本方針を立てました。このうち、1つ目に、人・モノ・情報の交流の推進を目的として、平成29年4月にオープンした観光交流センター（道の駅）川のみなと長井と、公共複合施設の2つの拠点を整備し、市民や観光客がまちなかで回遊できる仕組みをつくることを決めました。

基本方針Ⅰ 市民と観光客が集い 魅力あるまちづくり（※中心市街地活性化基本計画より抜粋）

長井市が持つ歴史や文化、自然等の豊富な資源に磨きをかけるとともに、最上川舟運が漂うまちなみ景観や街路等、かつ観光交流センターや複合施設等の拠点整備により、市民が安心して買い物できるまちを創り観光客が目的地として足を止め、回遊できる仕組みにより、人・モノ・情報の交流を推進します。

長井市で最も交通量の多い国道287号沿いに観光交流センターが整備されたことにより、現在は観光客や周辺自治体住民が長井市を通過した際に立ち寄る拠点、いわゆる「まちのへそ」が完成しました。これに加え、市民や周辺自治体住民、観光客など幅広い世代が出会い、交流し、楽しい時間を過ごせるような拠点をまちなかへ設け、中心市街地への人の流れと「まちなかでの人のたまり場」を作り出すことを目的として、公共複合施設の整備が求められています。

【安全と市民ニーズ対応のために】…「公共施設等整備計画」「図書館部分整備基本構想」との関連

平成28年11月に策定した「長井市公共施設等整備計画」では、昭和56年3月に完成し、築37年が経過した長井市立図書館は、老朽化と耐震性に問題があること、市民から多機能型図書館としての新設要望があることから、児童遊戯施設との複合化し新築整備することを掲げています。

第4章 公共施設等整備方針

（※公共施設等整備計画より抜粋）

分野別の整備方針／公共建築物／文化・社会教育系施設

- ・図書館は老朽化が進んでおり、耐震等の安全性についても問題があるため、他の施設との複合化を検討し整備します。

第5章 整備計画

公共建築物のうち、既存の施設については、重要度や施設の評価に基づいて設定した優先度をもとに、大規模改修等により長寿命化を図っていきます。また、防災上重要度の高い建築物や耐震対策未実施の施設における耐震性の確保を優先して整備します。

新築の施設として、市民からの要望が多い屋内児童遊戯施設及び多機能型図書館などを備えた公共複合施設について、計画期間内の整備を行います。

整備対象施設／公共建築物

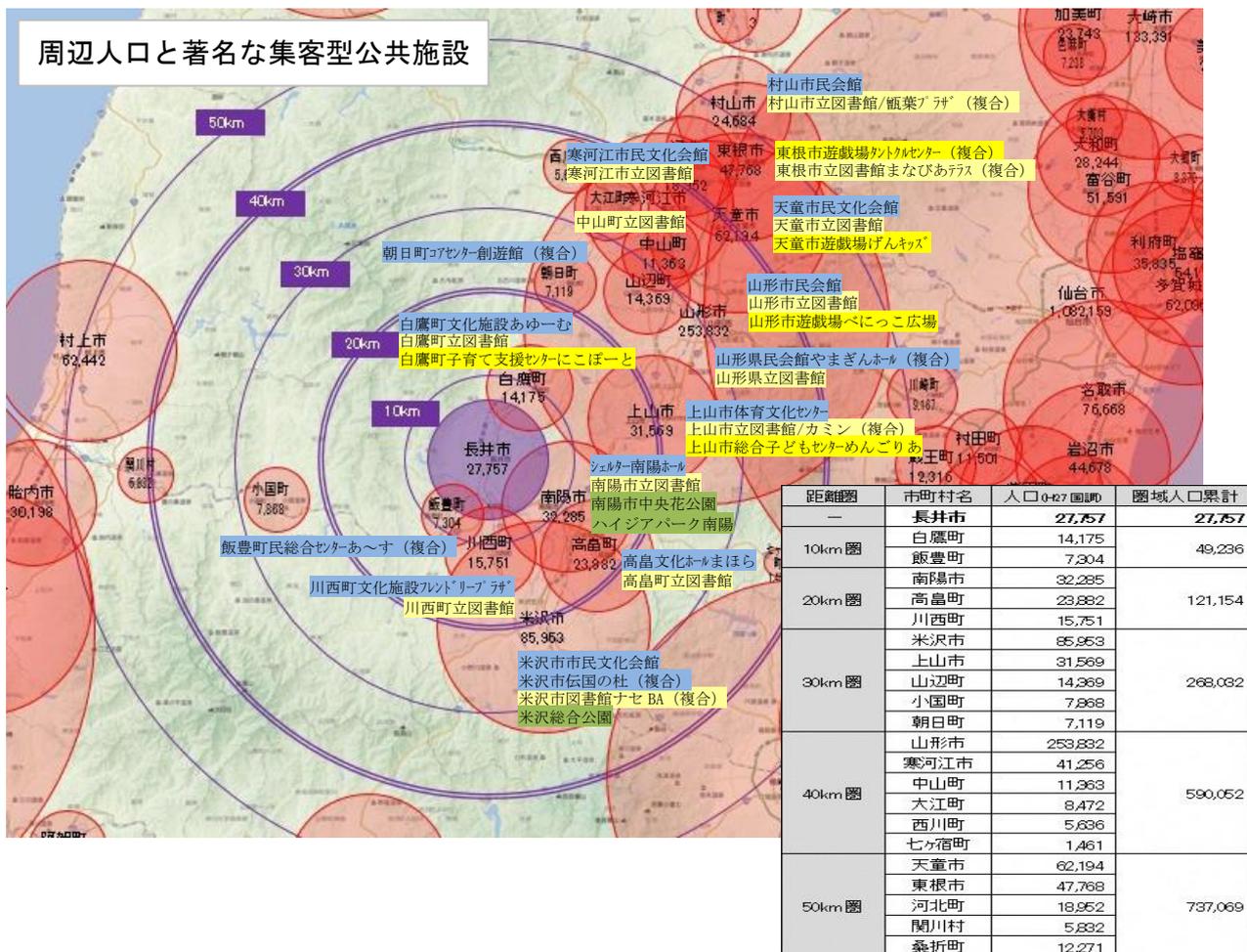
- ・公共複合施設

季節や天候に左右されることなく利用できる屋内児童遊戯施設、多機能型図書館等を備えた複合施設を整備します。

【西置賜の中心都市機能維持のために】

長井市を中心とした西置賜は人口規模が約 5.7 万人と小さいものの、中心都市としての長井市の都市機能が低下すれば、周辺自治体の居住者の生活利便性も低下し、西置賜地域の更なる人口減少が加速していく可能性が高まります。

長井市周辺の自治体の人口と各自治体が所有する公共施設を地図上に記載してみると、西置賜には娯楽性と集客力の高い公共施設が乏しいことがわかります。



直近 5 年間の県内の公共施設整備を見てみると、山形市の児童遊戯施設「べにっこ広場」は平成 27 年 3 月に完成、また、天童市の同様の施設である「げんキッズ」は平成 27 年に完成し、村山地方の住民だけでなく、長井市在住の親子も利用している状況です。

置賜地方で見ると、南陽市の市民文化会館「シェルター南陽ホール」が平成 27 年 3 月に完成し、主にコンサート事業を主軸として市内外から高い集客を実現しています。更に平成 8 年に完成し、屋外に大型遊具がある南陽市中央花公園も休日は親子で賑わう場所となっており、長井市からの利用者も多い状況です。また、米沢市の複合型図書館「ナセ BA」は平成 28 年 3 月に完成し、図書館階とは別階にカフェがある他、ギャラリーを併設することで多目的な集客を実現しています。

このような状況を踏まえると、西置賜地方には次のような施設が乏しいことがわかります。

西置賜地方に乏しい施設

- ◎雨や雪といった天候に左右されず、大型遊具や広場があり、子どもがのびのびと遊びまわることが出来る屋内型遊戯施設
- ◎本を読みながら飲食が可能なカフェ併設型の図書館（図書館とカフェが同フロア）
- ◎子育て世代の親が子どもを手放して活動できる施設（一時預かり併設の施設）
- ◎幅広い世代の大人が長時間ゆっくりと過ごすことができる施設
- ◎中高生のたまり場になる娯楽性のある施設
- ◎屋内型軽運動場（フィットネス、フットサル、ミニバスケ、バドミントン等）
- ◎商業機能（物販店、温泉、映画館等）【民間】

【公共複合施設の整備目的】

これまでの各種計画や市民アンケートでのニーズを踏まえ、公共複合施設の整備目的を下記のとおり設定します。

**幅広い世代の市民と交流人口をターゲットとし、
西置賜の中心都市として学べる・育てる・遊べる・出逢える拠点、
滞在型交流の核となる場所・機能をつくること**

○検討される整備手法

1. **基本計画の趣旨と位置付け（1）計画策定の趣旨**に記載のとおり、公共複合施設は国交省の補助事業である都市再生整備事業／都市再構築戦略事業を活用予定です。補助事業においては補助対象とならない施設・機能があるため、上記、「西置賜地方に乏しい施設」の全ての機能を公共複合施設で網羅することは困難です。よって**本計画では、補助事業の制度上で実現できる事項は可能な限り盛り込むことを基本方針**とし、網羅できない施設や機能については別途に検討することとします。

なお、市で整備を予定している公共複合施設に加えて、民間企業とも協議を行いながら、公共複合施設周辺における商業施設等の計画や、官民施設の集約配置による相乗効果でまちの賑わいを創出する西置賜の中心エリアづくりについても検討していきます。

(3) 読書環境の現状と課題

【日本の都市一般の現状と課題】

我が国では、電子・映像メディアの普及により、読書離れや出版不況が進行しています。家庭においても書籍より電子端末の閲覧が一般化し、メディア接触機会の増加・簡易化が著しく進行しています。この影響は図書館にも及ぶ一方で、知の拠点としての図書館の役割が見直されています。文部科学省は、平成 24 年に「図書館設置及び運営上の望ましい基準」を改正告示し、図書館利用者の拡大と豊かな図書館サービスの展開に向けての基準を示しています。

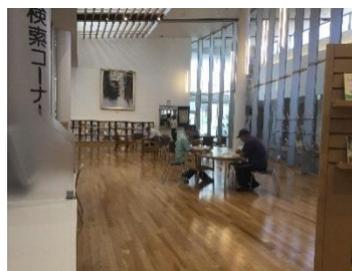
このような状況下で近年の図書館では、地域住民の課題解決や学習機会の提供等の図書機能が充実、高度化され、最も利用頻度の高い集客性のある公共施設として、また駅前再開発や中心市街地活性化、コミュニティ再構築等の拠点としての役割を担う様になっています。

【山形県の現状と課題】

山形県立図書館を中心として、県内主要図書館では、インターネット検索や貸出予約ができ、情報化社会に対応してきています。一方、戦後の図書館法(昭和 25 年)に基づいた図書館では、老朽化や耐震基準に達していないことから近年改築される事例が多くなっています。その中で米沢市、東根市をはじめとして、地域の価値観や要望、課題に対し、資料の貸出や閲覧だけでなく機能を充実させた複合図書館ができており、入館者の大幅な増加が見られています。

【長井市の現状と課題】

長井市立図書館は、ここ 10 年の間にシステム導入や更新、移動図書館やまちなか図書館、指定管理者導入等、サービス拡充を行ってきました。しかしながら、ICT^{※7}や IoT^{※8}等への対応不足や建物の老朽化・蔵書増加による狭隘化、また人員配置の限度等により、市民ニーズや時代にあったサービスに対応しきれてないため、これらの課題に対応する施設づくりが求められています。



山形県内において近年計画された図書館

※7:ICT:「Information and Communication Technology」の略で、コンピューター・インターネット・携帯電話等を使う、情報処理や通信に関する技術の総称のこと。

※8:IoT:「Internet of Things」の略で、あらゆる物がインターネットを通じてつながることによって実現する新たなサービス、ビジネスモデル又はそれを可能とする要素技術の総称のこと。

長井市の既存図書館におけるハード面の課題

①耐震への懸念

昭和56年開館以来、35年以上経過しており、老朽化に伴う耐震対応が求められています。

②バリアフリーの問題

1階が開架書庫、2階が閉架書庫・事務室、3階が学習室・視聴覚室・郷土資料室になっていますが、エレベーターもなく狭くて急な階段の昇降や各階の狭い通路に職員も利用者も不便を感じています。またトイレは和式であり、現代の利用に対応し切れていません。

③書庫の不足

開架書庫のフロア面積が狭いため蔵書の半分しか開架できていません。蔵書が増え、閉架書庫に収納できない資料は、別室や別施設に保管しています。

④閲覧・学習スペースの不足

一般書籍の閲覧席が16席、新聞等の閲覧席が3席、長椅子が4脚、児童コーナーの閲覧席が10席、椅子3脚となっています。学習室は、16席ありますが、希望者が多いときは視聴覚室を開放しなければいけなく、中高生は他施設で勉強する人も多い状況です。

⑤高い書架陳列

一般の書架は7～8段、児童書架は3～7段とスペースの関係上高めで見通しが悪くなっており、平置きは新刊書や雑誌、絵本などごく一部です。広く余裕のある開架・閉架が求められます。

⑥児童利用対応の不足

おはなしコーナーは、児童コーナーの一角にあり、狭く仕切りもない状況いため、のびのびと親子が利用できる環境が求められます。



(4) 子育て環境の現状と課題

【日本の都市一般の現状と課題】

急速な少子高齢化の進行から、将来的な社会・経済への影響が懸念されるなか、核家族化、就労環境の変化、地域のつながりの希薄化等、子どもと子育て家庭を取り巻く環境変化による孤立感や負担感の解消に、社会全体で支援していくことが必要となっています。

法的には、国が環境整備に向けて、平成 15 年に『次世代育成支援対策推進法』を制定し、次世代に向けた取り組みを進め、平成 22 年には『子ども・子育てビジョン』を閣議決定、幼保一元化の検討が開始されます。その後、「子どもの最善の利益」が実現される社会をめざすとの考えを基本に、平成 27 年度からは子ども・子育て支援新制度がスタートしています。以上の様に、子育て関連の法整備や支援事業は国をあげて急速に展開されています。

【山形県の現状と課題】

冬季の低気温や積雪により屋外の子どもの遊び場が不足する県内では、平成 17 年に「東根市タントクルセンター」が屋内遊具のある子育て支援施設として最も早くに開館し、若年世代人口の増加等、大きな成果を上げています。平成 22 年には、「村山市総合文化施設複合施設甌葉プラザ」が子育て支援機能を含む施設として開館、平成 26 年には、「山形市児童遊戯施設べにっこひろば」が開館し、乳幼児から小学生までを対象としたサービスで、全県的に利用されています。また、平成 27 年には、屋内遊具を充実させた「天童市子育て未来館げんキッズ」が開館し、こちらも全県的に利用されており、屋内の遊び場が少ない長井からの利用者も多くいる状況です。

【長井市の現状と課題】

全国同様、長井市においても晩婚化・晩産化を原因として少子化が急速に進展しており、昭和 60 年の 33,490 人をピークに減少、平成 29 年には 27,049 人と減少、15 歳未満人口はその間に 6,685 人から 3,381 人に減少しています。家族世帯の構成別でみると、核家族世帯と単独世帯が増加し、三世帯同居の減少がみられます。また、女性の就業率は、全国、山形県の平均に比べて高く、子育て期間もほぼ一定して 80%前後で推移、共働き世帯が増加しています。

長井市の子育て支援のための中心施設としては、「長井子育て支援センター まざ〜れ」がありますが、施設規模が小さく、遊び場も市民のニーズに応えるには十分とは言えず、他の市の遊び場を利用している人が多い状況です。また、母子・父子家庭の増加も見られ、子どもの遊びや体験機会の減少、地域のつながりの希薄化、育児ストレス（孤立感・負担感）の増加、家庭内教育力の低下も懸念されます。このことから、子育て支援環境の充実を図る必要があるといえます。



長井市子育て支援センター まざ〜れ

3. アンケートによる要望内容

本基本計画策定にあたり、どのような施設、どのような機能があったらよいと思うか、市民アンケートと、世代別には中学生アンケート、子育て世代ヒアリングをそれぞれ文書により選択回答と自由記述に分けて実施しました。

市民アンケートは16歳以上の市民1000人を層化抽出（地区・年代ごとに区分した中から無作為抽出）調査し、そのうち361名の長井市内の市民の方から広く意見を収集、中学生アンケートは長井市内の公立中学校生徒702名、子育て世代は市内子育て施設においてヒアリング調査の結果、104名の意見を回収しました。（詳細は資料編を参照）

4. 検討委員会での意見交換

公共複合施設整備にあたり、市民の方々の意見を頂くために、学識経験者、子育て関係団体等をメンバーとする長井市公共複合施設整備市民検討委員会を設置し、協議をおこないました。（詳細は資料編を参照）

第2章 計画の基本的な考え方

1. 施設のコンセプトと基本方針

図書館と子育て応援施設のそれぞれの基本構想では、「長井市第五次総合計画」や「長井市子ども・子育て支援事業計画」の理念等に基づき、多機能型図書館と子育て世代活動支援センターの基本理念が示されています。

当該基本理念と前段で示した公共複合施設の整備目的に基づき、以下のコンセプトと基本方針を示します。

公共複合施設のコンセプト

まな そだ あそ であ つむ
学び・育ち・遊び・出逢いを紡ぐ場所

公共複合施設の基本方針

- ①多世代の居場所として、にぎわいや交流の拠点となる施設
- ②「遊び」や「学び」を通して、子ども自身が持つ、育つ力を養成する施設
- ③多様な利用形態に合った効率的で柔軟な施設

多機能型図書館

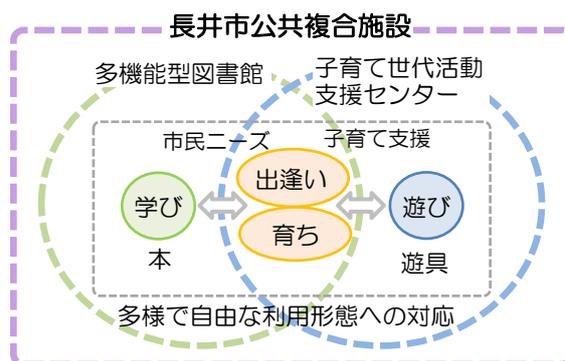
- ①市民や地域の暮らしに役立つ、本の魅力を伝える図書館
- ②市民活動や地域と連携・協働し、まちづくりにつなげる図書館
- ③みんなが居心地良く、交流の拠点となる図書館

子育て世代活動支援センター

- ①保護者同士のつながり、交流を広げ、子育てを支える施設
- ②子どもの成長を支える全天候対応のオールシーズンで遊べる施設
- ③妊娠・出産・育児の切れ目のない支援を支える窓口機能が集約した施設

(1) 公共複合施設の基本方針

多機能型図書館と子育て世代活動支援センターを複合化により、西置賜地域のシンボルとなる滞在型交流施設として、ニーズに合わせて利用者共に成長・変化し、フレキシブルな活用ができる施設を目指します。



①多世代の市民の居場所として、にぎわいや交流の拠点となる施設

- ・幅広い世代の市民が、居心地が良いと感じられる第3の場所（サードプレイス）^{※9}を提供し、目的がなくても訪れることのできる場所を目指します。そして、街の中核施設として賑わいの拠点となり、他市からも人を呼び込める施設を目指します。
- ・子育て支援や研修機能、図書館機能等、様々な機能が集まることで、子どもからお年寄りまで様々な利用者による活動の幅が広がり、世代間交流の促進にも繋がります。

②「遊び」や「学び」を通して、子ども自身が持つ、育つ力を養成する施設

- ・公共複合施設としての機能を十分に活用し、他の子ども達とのコミュニケーションを通して協調する社会性を養います。また、「遊び」による運動機能の基礎を形成し、「学び」による基礎学力を育て、豊かな人間性を育みます。
- ・乳幼児連れの親や児童・青少年に対するサービスを重視し、市内の他機関・団体や学校との連携を深め、子育て及び学校教育の課題解決を支援するサービスを施設全体で充実させます。

③多様な利用形態に合った効率的で柔軟な施設

- ・多様な利用者の目的や利用形態に応じるため、市内で不足している生涯学習機能（研修・交流機能）を専用スペースとしてつくるのではなく、共用化を図り、用途の重複等を避けることで、効率的で空室の少ない使われる施設とします。
- ・幅広い世代の多様な利用形態を踏まえ、共用部や図書館は夜間も開放する等の開館日時等の設定を行い、誰もが訪れやすく、利用しやすい運営を行います。



例：多世代の居場所と賑わいの拠点

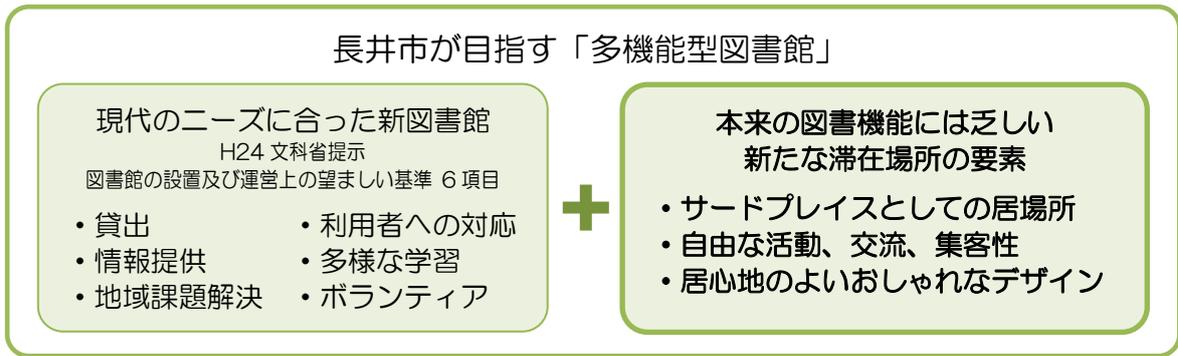


例：「遊び」と「学び」のある環境

※9:サードプレイス：自宅(ファーストプレイス)や職場・学校(セカンドプレイス)ではない、一個人としてくつろぐことのできる第三の居場所のこと。

①多機能型図書館の基本方針

長井市が目指す多機能型図書館とは、本来の図書機能にはない新たな滞在場所を充実させ、多様で自由な活動・交流を生み出す環境を作り、目的に関わらず幅広い世代が成長・変化できる施設です。



①市民や地域の暮らしに役立ち、本の魅力を伝える図書館

- ・子どもから高齢者の方まで、全世代の方々が生涯に渡り読書を通じて心豊かな生活を送ることができる環境整備と、本の魅力を伝え利用を促進する様々なサービスの充実を心がけ、ぬくもりと満足を感じさせるサードプレイスとしての居場所づくりに努めます。
- ・市民や地域の課題に対し市内各地区と連携し、読書や調査、学習の環境整備とサービス向上を目指すと共に、子育てや学校教育の課題に対しても、複合施設内の他機関や市内の学校との連携により、講座や講演会等を行い、課題解決を支援します。
- ・誰もが簡単に本を探したり借りたりできるよう、自動貸し出しシステムやより良い検索システムなどの導入を検討していきます。

②市民活動や地域と連携・協働し、まちづくりにつなげる図書館

- ・図書館が個人利用の場となると共に、本を中心とした情報発信拠点となることで、市民や地域の自治的・創造的で自由な活動を通じて人と人を繋ぎ、まちを元気にします。
- ・歴史・文化を学ぶための地域資料の利活用を推進し、長井市名誉市民である故長沼孝三氏の「長井の心」※11の郷土への愛着や誇りを育む学習を支援します。

③みんなが居心地良く、交流の拠点となる図書館

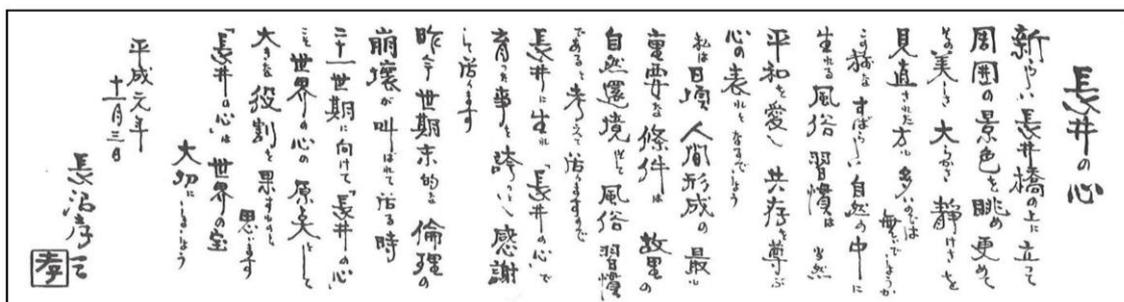
- ・資料の貸出や閲覧、学習による滞在と共に、市民ニーズを反映させ様々なアクティビティに対応できる、より自由な居場所のある交流の場を提供します。
- ・思いがけず本との出会いが生まれ、居心地が良く、つい長居してしまいたくなるようなおしゃれなデザインや什器計画を施し、従来の図書館利用者以外の人たちも利用しやすく集客性のある施設づくりを目指します。

なお、既存の長井市立図書館の蔵書数と延床面積に対し、「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（日本図書館協会編、平成24年12月文部科学省告示）で示されている人口区分ごとの目標基準値と比較し、下記のように図書館の蔵書冊数と延床面積として試算します。

	蔵書冊数	延床面積
長井市立図書館(既存)	10万冊	822.6 m ²
日本図書館協会指標 ^{※10} (平均人口：約2.6万人)	15.3万冊(開架9.9万冊)	1850.1 m ²
多機能型図書館(計画) (人口：約2.8万人/H27)	17万冊(開架10万冊)	1800 m ² (共用部の図書館部分を含む)

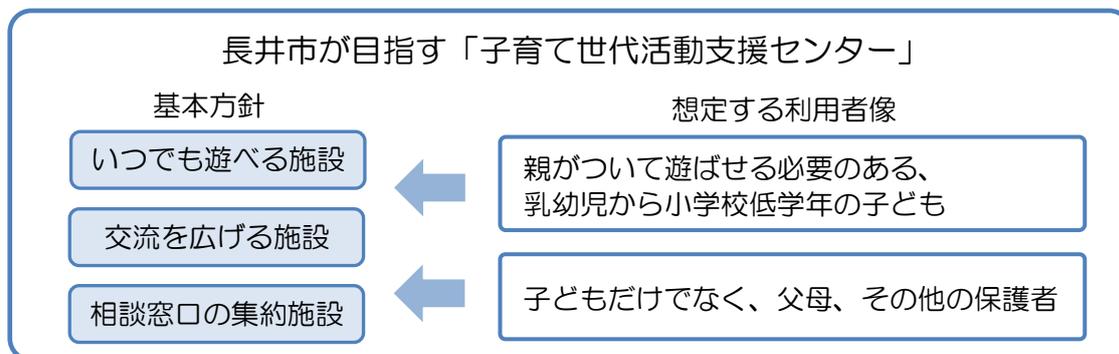
※10: 日本図書館協会指標：全国の市町村のうち、各人口段階で貸出密度(住民一人当たりの貸出資料数)上位10%の市町村の平均数値を算出したもの。

※11: 長井の心：長井市名誉市民の故長沼孝三氏が詠まれた詩のタイトルであり、長井の恵まれた自然環境や、そこから生まれる風習、習慣などにより育まれた長井の人々に共通する考え。



②子育て世代活動支援センターの基本方針

長井市における子育て世代活動支援センターでは、以下の基本方針と利用者像を想定した施設づくりを目指します。



①保護者同士のつながり、交流を広げ、子育てを支える施設

- 子ども・子育て支援は、子ども向けばかりではありません。同じような子育て世代の保護者同士が交流し、情報交換等ができるよう環境を整備していきます。そうすることにより、様々な人々との交流が生まれ、ひいては子どもの自己形成や社会性の育成につながります。そのような環境づくりを推進し、子どもが心豊かに成長できる社会の実現を目指します。

②子どもの成長を支える全天候対応のオールシーズンで遊べる施設

- 冬季の積雪により屋外の遊び場が不足するため、屋内の子どもの遊び場や体験機会の充実が必要不可欠です。市民ニーズに対応するのびのびと遊べる環境により、子どもの成長へ繋げ、子育て支援の一環となる施設づくりを目指します。利用者の安全を考慮し、遊び場は、乳幼児から小学校低学年(3年生)までを対象とします。

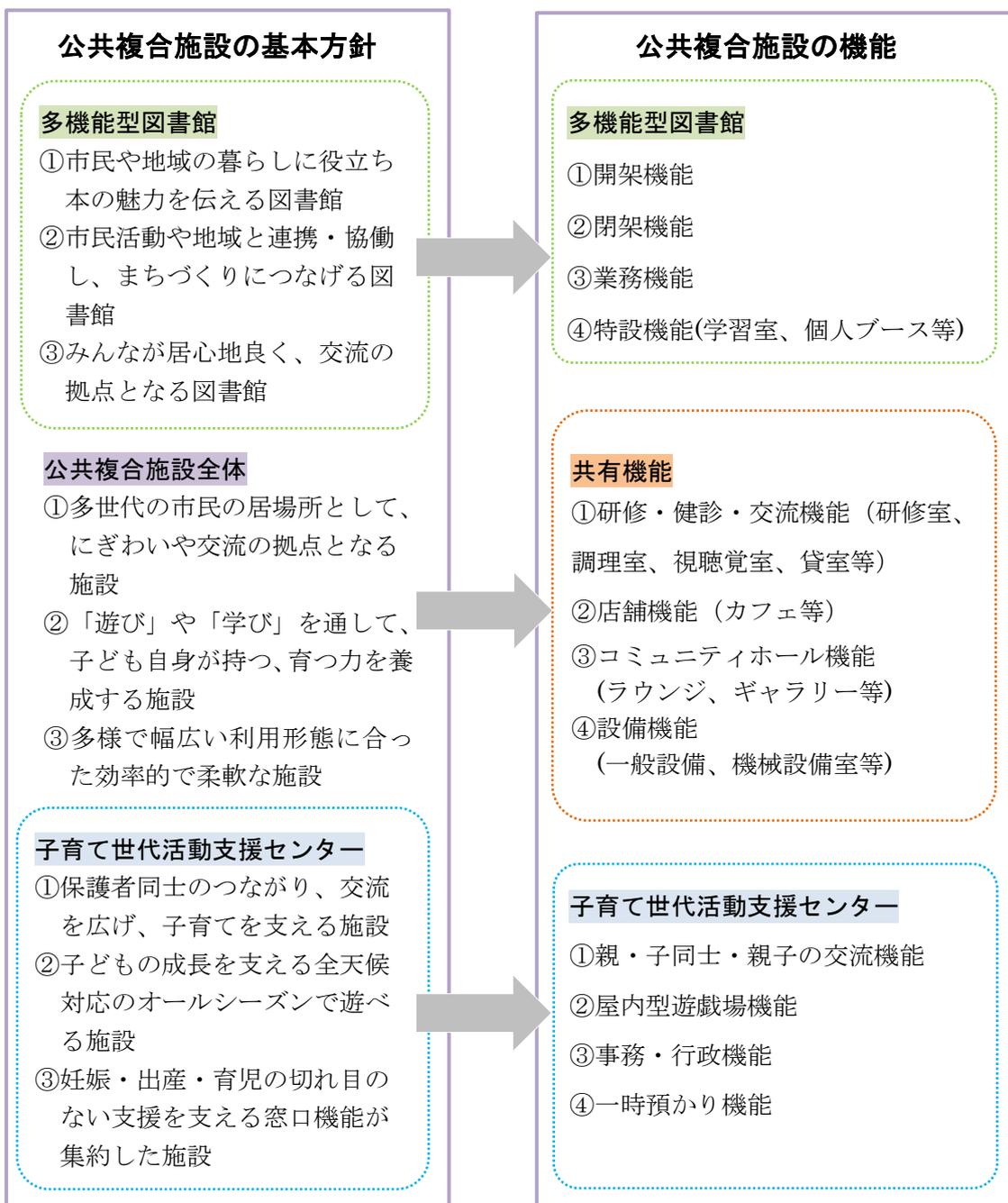
③妊娠・出産・育児の切れ目のない支援を支える窓口機能が集約した施設

- 子どもの健やかな成長のためには、父母その他の保護者への支援も必要不可欠です。妊娠・出産・育児に関する各種の相談に応じ、情報提供・助言・保健指導などを集約した窓口において、トータルで支援します。また、子どもがのびのびと遊び、成長に繋がる施設づくりをサポートできる環境を整備します。

2. 施設の機能

基本理念に基づく基本方針を具現化するために、総合計画等の市関連計画や施設の基本理念、及び各種アンケートでの要望、各種検討委員会での検討内容を踏まえ、公共複合施設は下記の様な基本機能を有するものとします。

複合施設としては、共通する機能を集約、合理化し、共用部分を創出します。そして、現状の課題に対応し、複合化のメリットを最大限引き出せる施設を目指します。



(1)多機能型図書館の機能

①開架機能

○エントランス

- ・エントランスは、図書館の顔として入りやすい雰囲気とし、利用者の活動が見える工夫をします。また、貸出した図書を利用者がいつでも返却できる機能を検討します。

○開架・閲覧コーナー

- ・開架コーナーは、見渡しの良い館内とし、利用者が求める図書を容易に探索できるなど、利用者に分かりやすい配置等に配慮します。
- ・閲覧コーナーは、多様な空間を設置し、利用者がその日の気分に合わせて選択し、毎日訪れても飽きず、長時間の利用にも疲れない様な工夫をします。

○ブラウジングコーナー

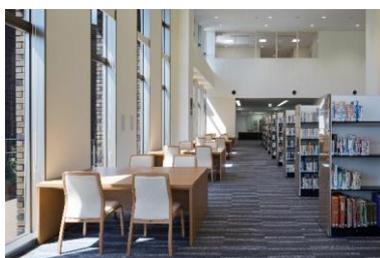
- ・気軽に新聞や雑誌を読むことができ、カフェで購入した飲み物を飲みながらゆっくりと出来るスペースを確保します。

○レファレンスコーナー

- ・利用者の課題解決に向け、必要な情報や専門資料を提供できるようにします。
- ・図書や情報検索等ができるコーナー等と一体的に利用できるように配慮します。

○キッズ図書コーナー

- ・読書や貸出を目的に来た子どもだけでなく、施設利用者が遊びの帰り等に、気軽にのびのびと本を楽しめる「空間」を確保します。
- ・幼児から小学校低学年程度までを対象にした読み聞かせの場や、児童図書を自由に閲覧できる場を設けて、幼児期から本に親しみを感じ読書習慣が育まれるような、親子で一緒に楽しく過ごせるよう整備・連携を図ります。



例：天井が高く、書架が低い開架スペース



例：多様な居場所のある閲覧スペース



例：キッズ対応の図書館づくり
(金沢海みらい図書館 HP)

②閉架機能

○閉架書庫

- ・閉架書庫は、利用頻度にあわせた保管・運営に配慮します。

③業務機能

○カウンター

- ・閲覧室が見渡せる位置に設置します。
- ・利用者の目的に応じて、利用者と同じ目線で対応するものや、座って対応するものを設置します。また、児童にも利用しやすい工夫をします。

○自動貸出・返却サービス

- ・自動貸出機や予約棚を導入し、貸出の利便性を高めるとともに、プライバシーの保護に配慮して、「借りやすい」環境をつくる工夫をします。
- ・返却だけの利用者の為に、ドライブスルーのブックポストの設置など返却の利便性を高める工夫をします。

○情報端末・情報管理システム

- ・利用者のニーズ、時代にあった情報端末・情報管理システムを導入します。

○移動図書館サービス

- ・図書館から距離的に離れているなど、来館が困難な方へ移動図書館車による貸し出しを継続します。

④特設機能

○学習スペース

- ・利用者ニーズに合う適切な学習スペースとして、受験生に対応した静かに集中できる場所からゆっくりと会話しながら勉強できる場所まで、施設全体で様々な居場所を確保します。

○個人ブース

- ・ニーズが高い個人利用のブースを確保します。

○視聴覚コーナー

- ・防音性能と設備の整った利用者のニーズにあった視聴覚コーナーを確保します。



例：入りやすい図書館のエントランス



例：ブラウジングコーナー

図書館で行うサービス

○乳幼児・児童へのサービス

- ・乳幼児期、児童期の読書体験がその後の心の発達に大きな意味を持つことから、遊びの広場や研修室、ママカフェ等と連携して、子どもたちに本に親しんでもらうための働きかけを工夫します。

○ティーンズ・サービス

- ・豊かな人格の形成に寄与するため、十代の子どもたちに豊富な読書機会を提供します。本を読むほか、勉強する、音楽や映像に親しむ、友達付き合いやおしゃべりを楽しむといったライフスタイルに合わせた工夫をします。

○成人・社会人へのサービス

- ・文芸書のほか、子育てや暮らし、仕事に役立つ資料収集に努め、それぞれが抱える課題の解決を手助けします。

○高齢者へのサービス

- ・自分の時間をゆっくり過ごすことができる図書館を目指し、これまで本に縁の薄かった人々も気軽に足を運べるような工夫をします。

○ハンディキャップのある人へのサービス

- ・図書館を利用するにあたっての障害を取り除き、すべての市民が利用しやすい図書館を目指します。

○ボランティアサービス

- ・ボランティアとして図書館運営を共に推進いただける人材を育成しながら、ボランティア自身も居心地良く楽しめる対スタッフサービスの向上に努めます。



例：ボランティアによる児童への読み聞かせ
(村山市総合文化複合施設 甕葉プラザ HP)



例：学習スペースの開放

(2)子育て世代活動支援センターの機能

①乳幼児、親子、親同士の交流・遊び場機能

- ・親子と一緒に楽しく過ごせるように、年齢別に遊ぶ空間を分け、小さい子どもでも自由に遊べる広場を提供します。
- ・児童図書の読み聞かせができるスペースを整備し、幼児期から遊びながら本に親しみを感じられる場所を提供します。
- ・持参飲食可能なスペースを整備し、同世代の子どもを持つ親同士の交流の場を提供します。

②大規模な屋内型遊戯場機能

- ・乳幼児からや小学3年生までを対象として、屋内型の大型遊具を核とした天候に左右されることなく、年間を通して雨天時や冬期間も子どもたちが自由に遊べる施設を整備します。
- ・屋内型遊び場と連携して、屋外広場を整備し遊び場環境の充実を図ります。

③事務・行政機能（子育てワンストップサポート機能）

- ・長井市子育て世代包括支援センター「すまいる一む」の機能の設置を検討し、出産から子育てまで、子育ての不安な気持ちや悩みを相談し、支える場所を整え、安心して出産や子育てを迎えることができるよう切れ目のない支援機能の充実・連携を図ります。
- ・市民課、子育て推進課、保健センターの3ヶ所に分散している未就学児童に関する相談や手続きを複合施設でも行えるようにし、子育て関連情報の提供を含めて子育て世代の利便性を向上させます。
- ・子育て世代が仕事と育児を両立し、安心して働くことができ、また、リフレッシュして、ゆとりをもって子育てができる環境づくりを進めるため、ファミリーサポートセンター事業の充実を図ります。

④一時預かり機能

- ・保護者が安心して子どもを預けられ、気軽に子育てセミナーへの参加や子育て相談ができるように、一時預かりの充実を図ります。



例：大型遊具のある屋内遊戯場



例：乳幼児や幼児の遊び場



例：子育て支援事務室と相談スペース

長井市で想定する子育て支援(子育てワンストップサポート)



※12:母子保健コーディネーター：長井市子育て世代包括支援センター事業に基づく、母子保健事業に関する専門知識を有する保健師と職員。

※13:母子父子自立支援員：母子及び父子並びに寡婦福祉法に基づく、配偶者のない者で、現に児童を扶養しているもの及び寡婦に対し、相談に応じその自立に必要な情報提供及び指導を行う、または職業能力の向上及び求職活動に関する支援を行う支援員。

※14:子育て応援パスポート：やまがた子育て応援パスポート事業に基づき、子育て家庭に交付し、事業に協賛して頂いている企業や店舗で提示すると、様々なサービスを受ける事ができるカード。

※15:母子健康手帳：母子保健法に基づき、妊娠の届出をした者に対して、市町村が交付するもので母子の健康保持をはかるために記録するもの。

※16:祖父母手帳：乳幼児がいる祖父母の孫育てや父母との良好な関係を支援する手帳

※17:BabyBox：出生した赤ちゃんに祝福と歓迎の意を込めて長井市から贈るもの。育児グッズや子育て支援情報が詰まっているもの。

※18:ブックスタート：赤ちゃんと保護者に絵本を開く楽しさを体験してもらい、絵本を手渡す活動。健診等の機会に実施し、全ての赤ちゃんに対応。

※19:ファミリーサポートセンター：子育てのお手伝いができる方と、手助けをして欲しい方が会員になり、冠婚葬祭や買い物等外出の際の子どもの預かりを行う会員組織。

(3)共有機能

①研修・健診・貸室・店舗などの交流機能

○研修室(研修・調理室・臨時健診センター)

- ・子育てに関するセミナーやイベントを開催し、同世代の子どもを持つ親同士が子育てを通して交流をし、親子での各種健診等の様々な活動に対応できる場所の充実を図ります。
- ・研修室の間仕切りをとることで、大人数の講座や臨時の健診にも対応できるようなスペースを確保します。

○カフェ・店舗機能

- ・子ども連れでも気兼ねなく楽しく滞在できるカフェやテイクアウトの充実した店舗などの設備を充実させます。
- ・子育て用品や文房具等、施設利用者の要望に合う業態の雑貨店を提供します。

②コミュニティホール機能

- ・通路をラウンジのようにコミュニティスペースとして、研修室、会議室等を繋ぐことで、利用者が読書や学習、気軽な談話・交流、各種セミナーや音楽練習、会議、展覧会等のイベントや多目的な活動に対応でき、自由に滞在できる場所の充実を図ります。

③設備機能

- ・廊下やトイレをはじめ、授乳室やおむつ替えスペース等の設備を効率よく配置し、施設全体で共用することで面積削減や利用しやすい施設づくりに繋がります。



例：親子、親同士の交流・研修の場



例：音楽練習にも対応した多目的スペース
(美浜町生涯学習センターHP)



例：ママカフェ (photovel cafeHP)



例：コミュニティスペース

第3章 公共複合施設の施設計画

1. 施設整備の配慮点

①長井の地域性への配慮

- ・本市では、昔ながらの良好な景観を形成していくため、「景観行政団体」(良好な景観形成のための具体的な施策を実施していく自治体)となり、市独自に歴史や自然・文化を生かした長井らしい豊かな景観の保全・活用に努めており、文化や植栽など、地域性に見合った施設づくりを目指します。
- ・風や冬季の雪を考慮に入れた建物・屋根形状や建物配置、駐車場の計画を行います。



長井の豊かな緑や花

②期待感や楽しさ、くつろぎ、ぬくもりのある施設

- ・建築設計にあたり、地域景観に配慮しつつ、建物外観からは期待感や楽しさを感じられるようにします。
- ・内装は、木材などの自然素材も利用し、柔らかく温かみのある感触に触れ、楽しさやぬくもり等、利用スペース毎に異なる雰囲気を感じることができるようになります。
- ・安心した気持ちでいつでも利用できるような色彩やデザインとします。



水路や川等の水のある環境

③安全の確保・ユニバーサルデザイン

- ・親が安心して子育てができるように駐車場との間に干渉等を設け、安全対策を徹底します。
- ・乳幼児をはじめ、妊婦や障がい者、高齢者など、幅広い人々の利用に対応するため、ユニバーサルデザインに配慮した通路幅、エレベーター、トイレ等の設計を行う等、誰もが使いやすいバリアフリーな施設とします。



例：内装の木質化

④長寿命化への配慮

- ・複雑な形状、構造を避け経年劣化に強い施設とします。
- ・躯体を含む外装は、雨や雪、風に十分に耐える保護効果の高い性能を持たせます。



例：屋根のあるアプローチ

⑤自然環境への配慮とコスト低減

- ・自然エネルギーの活用を積極的に行い、地球環境や立地環境に配慮した施設づくりを進めます。
- ・環境に優しい建材・リサイクル材料等の利用、エネルギー効率のよい空間設計など、ライフサイクルを考慮し、建設・維持コストを最適化する設計・施工を図ります。



例：自然エネルギーの活用

2. 施設の概要

(1)施設延べ床面積

- ①総施設延べ床面積：5,000 m²
- ②多機能型図書館：1510 m²
- ③子育て世代活動支援センター：1165 m²
(屋内遊びの広場：700 m² 高さ 7m/最大利用人数：約 160 人)
- ④共用機能：2325 m²
(研修・健診・交流機能、店舗機能、コミュニティホール機能、その他設備スペース等)
- ⑤必要駐車台数：約 150 台

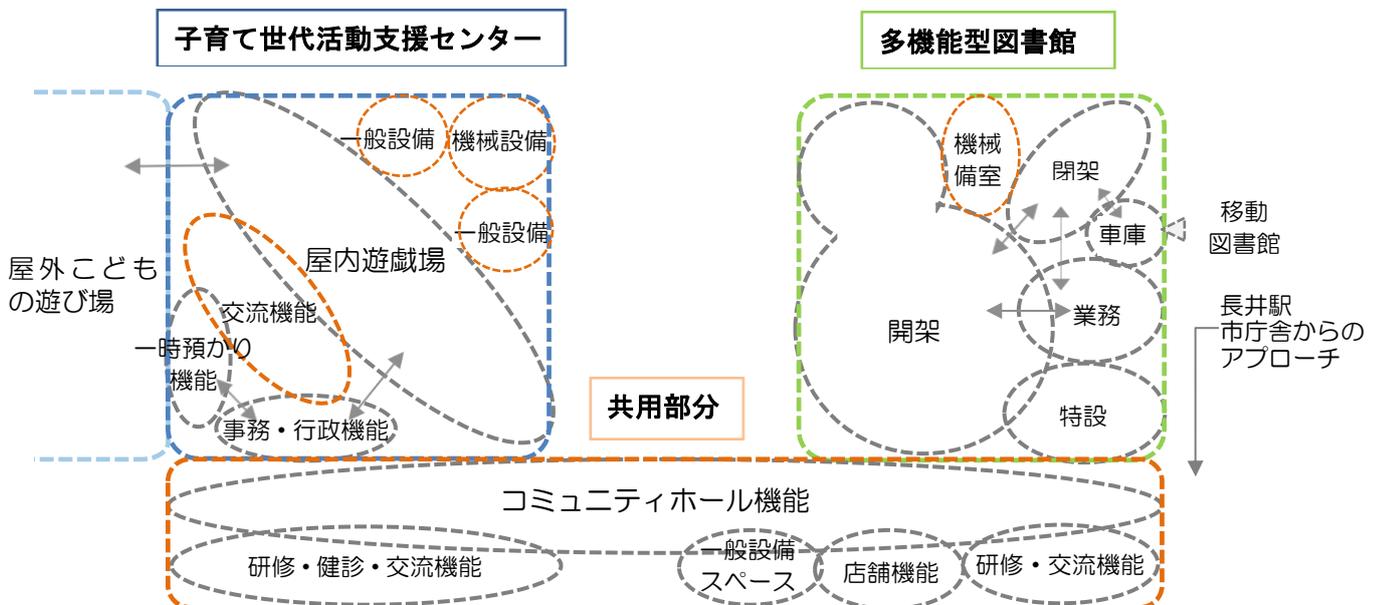
(2)事業費

総事業費： 億円（建築工事費 億円程度・用地費・移転補償費・解体費等）

※国交省の都市再生整備事業における補助金の上限

図書館機能： 億円、	}	計 億円の内、1/2 が補助金となり、建物以外にも用地取得や外構整備等にも使用可能。 (基本構想記載の屋内運動場は補助の対象外)
子育て世代活動支援センター： 億円		

(3)機能図



(4)想定面積表

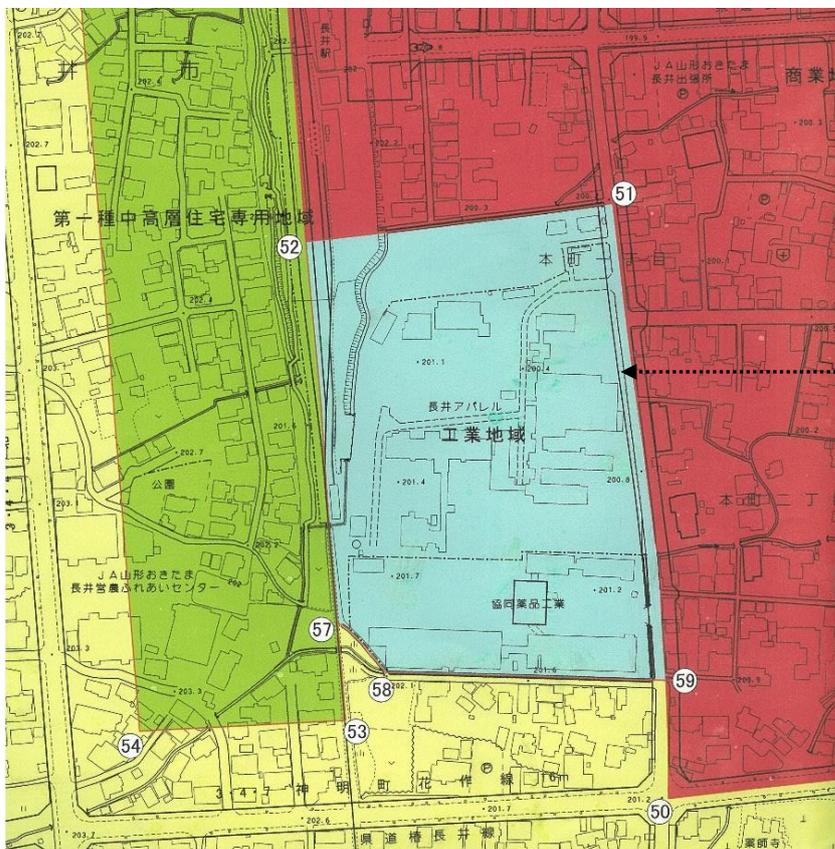
区分	機能	室名称	小計 (㎡)	中計 (㎡)	用途	備考
多機能型図書館	開架	図書コーナー	980	1510	開架書架利用	
		閲覧コーナー				
		ブラウジングコーナー				
		お話しコーナー				
		展示・郷土資料コーナー				
	ITコーナー					
	DVD(AV)コーナー					
閉架	閉架書庫	220		職員の事務作業	※閉架7万冊想定	
業務	事務室・サービスカウンター	180		市民ボランティアの事務作業等		
	館長室兼応接室					
	図書館ボランティア室					
特設	移動図書専用車庫	130		研究、学習等	※受験生対応も想定	
	学習室					
個室ブース				貸出しDVDの視聴等		
共有機能	研修・健診・交流機能	研修室1 (臨時健診センター利用)	740	2325	各種セミナー	出産前、離乳食、祖父母対象講座等
		研修室2			各種健診	乳幼児健診(3か月、9か月、1歳6か月、3歳児)
		研修・調理室			研修、イベント等	妊婦歯科検診、親子歯科検診(2歳児)
		印刷室			研修、料理教室、イベント等	予防接種
		視聴覚室				※会議室・研修室との共用検討
		会議室				
	貸室	会議や持込みDVDの視聴等	※有料貸出			
店舗機能	カフェ	220		飲食	※子供連れでも利用しやすい店舗を想定	
雑貨店	テイクアウトカフェ			子ども用品・学用品等の販売	※テイクアウトで売場のみ、飲食は通路などで行う。	
コミュニティホール機能	エンタランスホール (階段や廊下を含む)	780				
ラウンジ・ギャラリー						
一般設備	給湯室・洗濯室・手洗い場 自動販売機スペース 一般用トイレ(男・女) 幼児用トイレ(男女混) 多目的トイレ(2か所) 授乳室	235				
			おむつ替えスペース			
			電気室			
機械設備室	機械室	350				
子育て世代活動支援センター	親・子同士・親子の交流機能	乳幼児遊びの広場	200	1165	乳幼児の遊び、親同士の交流	子育て支援センター「まご〜れ」、保健センター「赤ちゃん広場」(自由遊び、読み聞かせ)と類似
		持参飲食室			親子飲食	
	屋内型遊戯場機能	屋内遊戯場	700		アスレチック	※乳幼児～小学校低学年(3年生)の利用を想定
					滑り台、ボルダリング壁	※土日は年齢別に遊具の利用を分ける想定
					トンネル、トランポリン	※屋外遊戯広場は別途(2000㎡程度を想定)
	事務・行政機能	相談室	130		各種相談対応	母子保健コーディネーター(保健師)による相談 育児相談、母乳相談、母子自立支援員相談 貸付相談(母子福祉資金、寡婦福祉資金) 母子健康手帳、祖父母手帳、妊婦健診費助成券
物品交付				子育て応援パスポート、BabyBox(※出生届と同時) 出産育児一時金(出産費用) 特定不妊治療費(体外受精及び顕微授精) 不育症治療費(流産・死産を繰り返すもの)		
各種助成の申請受付				児童手当、児童扶養手当 特別児童扶養手当、障害児福祉手当 子育て支援医療証、ひとり親家庭等医療証		
保育所等入所受付				保育所等(保育園、幼稚園、児童センター)利用申込 保育料軽減申込 児童クラブ利用申し込み、利用料軽減申し込み		
一時預かり機能	屋寝室・医務室・休養室 施設内預かり室	135	職員の事務作業			
			施設外預かり利用受付	ファミリーサポートセンター受付		
施設内一時預かり利用受付						
預かり児用お昼寝・軽微な医務						
読み聞かせ、自由遊び						
おやつ、軽飲食等						
面積合計				5000		

【建設予定地概要・法的条件】

公共複合施設の建設予定地について、概要と法的条件をまとめます。なお、以下の敷地範囲については、現段階における計画であり、今後基本設計、実施設計等の段階での配置検討の上、新たに設定する可能性があります。

所在地	長井市本町1丁目、2丁目
用途地域等	工業地域
総敷地面積	約 25,000 m ²
法定建ぺい率	60%
法定容積率	200%
日影規制	工業地域のため適用しないが、隣接地域への日影を考慮に入れる。 (山形県建築基準条例 日影規制パンフレット H13.10) 西側：第一種中高層住宅専用地域 対象建築物：高さが10mを超える建築物 平均地盤面からの高さ：4m 日影時間：4時間以上(敷地境界線からの距離5~10m以内の範囲) 2.5時間以上(敷地境界線からの距離10mを超える範囲)

都市計画図



現況幅員約8mから
9m以上に拡幅整備予定

(2)建設予定地の特徴

公共複合施設の計画敷地は、西側で山形鉄道フラワー長井線に面し、現在2つの私有地となっており、敷地内には工場や職員寮等の建物が残っている状況です。また、敷地の西側と南側、東側の一部に水路が通っており、北側の敷地境界の隣地はH32年度末までに整備予定の新長井市庁舎の敷地となっています。



① 西側水路



② 東側道路と私有地



③ 東側道路と私有地



④ 南側道路・水路

水路を挟んで、約1.5~2mの高低差があり、私有地と私有地の敷地境界となっています。

敷地東側は約8m幅の道路であり、都市計画道路として、9m以上に拡幅予定です。敷地内には私有地の工場等の建物が残っています。

敷地南側には私有地となっており、道路との敷地境界には水路が通っています。

敷地南側の道路は約5m幅となっており、敷地境界には水路が通っています。

【長井市の気象概要】

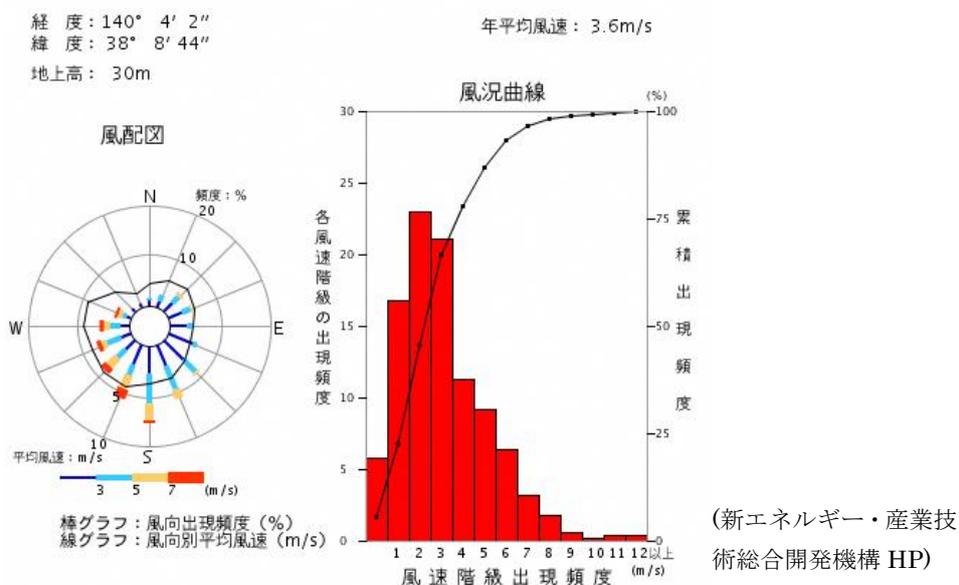
長井市は、東部はなだらかな出羽丘陵、西部は磐梯朝日国立公園の軸をなす朝日山系の険しい山岳地帯の盆地に位置するため、寒暖の差が激しく、降雪量が多くなっています。

12月～3月は雪が積もっており、年の1/3の期間は、子どもは屋外で自由に遊べない状況です。また、特に冬の西風が強く、駐車場や駅から施設への動線に対する配慮が必要です。

長井 平年値(年・月ごとの値) 主要要素

要素	降水量 (mm)	平均気温 (°C)	日最高気温 (°C)	日最低気温 (°C)	平均風速 (m/s)	日照時間 (時間)	降雪の深さ合計 (cm)	最深積雪 (cm)
統計期間	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1981～2010	1987～2010	1981～2010	1981～2010
資料年数	30	30	30	30	30	24	30	30
1月	166.1	-1.2	2.2	-4.4	1.8	52.8	267	83
2月	124.2	-0.8	3.0	-4.6	1.9	71.1	219	101
3月	114.7	2.1	6.8	-2.1	1.9	121.6	120	73
4月	113.0	8.7	14.7	3.0	2.0	167.6	10	14
5月	118.3	14.5	20.8	8.6	1.8	183.4	0	0
6月	147.3	18.8	24.3	14.0	1.5	147.7	0	0
7月	232.4	22.4	27.4	18.3	1.4	136.1	0	0
8月	157.0	23.6	29.3	19.2	1.3	171.4	0	0
9月	145.3	19.0	24.3	14.7	1.2	118.1	0	0
10月	137.6	12.4	18.3	7.8	1.4	111.8	0	0
11月	197.7	6.4	11.6	2.2	1.6	76.3	12	6
12月	201.0	1.7	5.5	-1.5	1.7	53.1	134	45
年	1854.6	10.6	15.7	6.3	1.6	1417.7	778	108

(気象庁 HP)

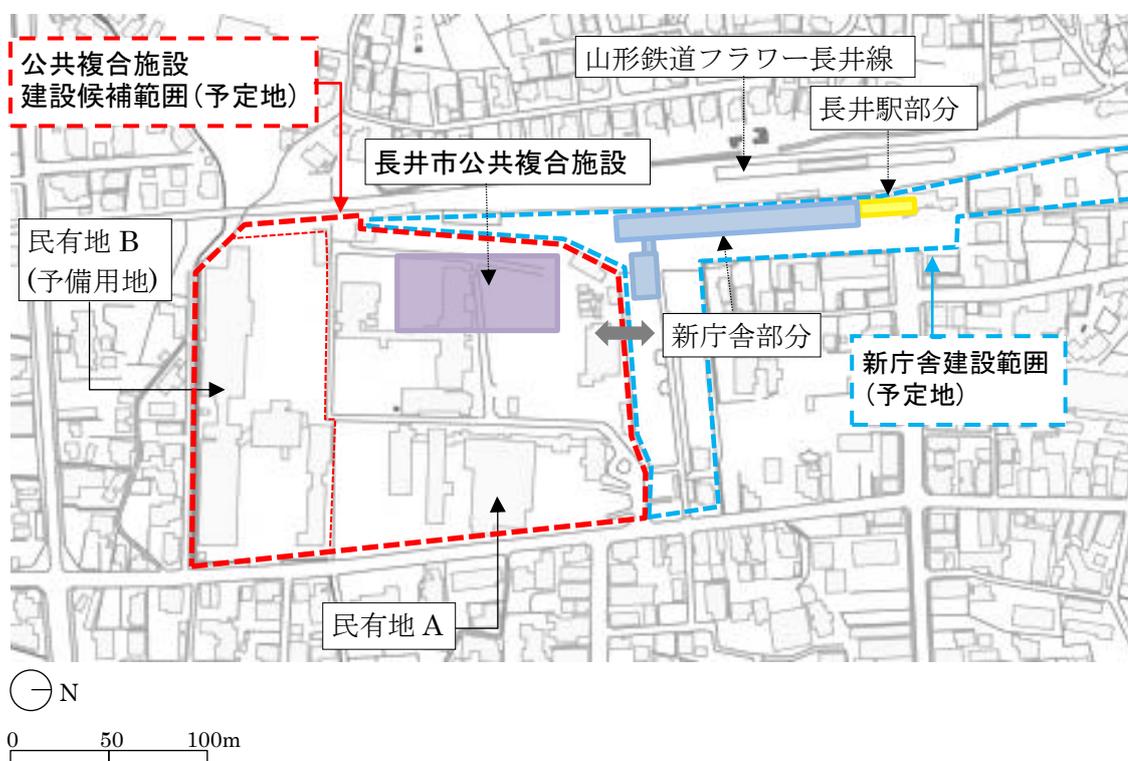


4. 建設予定地の配置計画

【配置計画における留意点】

- ・敷地北側に別途計画される新庁舎や長井駅との機能連携、動線の利便性に配慮します。
- ・冬季の強い西風や、降雪や積雪を考慮に入れた動線計画に配慮します。
- ・積雪に対する効率の良い除雪を行える様に、まとまった駐車場の計画を配慮します。
- ・屋外子ども遊び場や屋内遊技場、開架室等の諸室に適切な採光が取れる配置とします。

【配置計画イメージ図】



※公共複合施設建設候補範囲(予定地)には、今後、民間との商業施設や運動施設などの開発を協議していきます。

5. 構造計画

【耐震安全性】

下表の様な国土交通省の方針「官庁施設の総合耐震計画基準」では、人命の安全確保や官庁施設の機能確保を目的として、耐震安全性の目標を設定しています。公共複合施設は、多数の人達が利用する施設のため、設計段階では構造体、建築非構造部材、建築設備それぞれの項目において、下記の基準を参考にしつつ十分な耐震安全性を確保します。

官庁施設の総合耐震計画基準

部位	分類	耐震安全性の目標
構造体	I類	大地震動後、構造体の補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。
	II類	大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく建築物を使用できることを目標とし、人命の安全確保に加えて機能確保が図られている。
	III類	大地震動により構造体の部分的な損傷は生じるが、建築物全体の耐力の低下は著しくないことを目標とし、人命の安全確保が図られている。
建築非構造部材	A類	大地震動後、災害応急対策活動等を円滑に行ううえ、又は危険物の管理のうえで支障となる建築非構造部材の損傷、移動等が発生しないことを目標とし、人命の安全確保に加えて十分な機能確保が図られている。
	B類	大地震動により建築非構造部材の損傷、移動等が発生する場合でも、人命の安全確保と二次災害の防止が図られている。
建築設備	甲類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られているとともに、大きな補修をすることなく、必要な設備機能を相当期間継続できる。
	乙類	大地震動後の人命の安全確保及び二次災害の防止が図られている。

計画地の地盤については、地表面から浅い範囲は砂礫を主体とした軟~中硬程度の土質であると考えられます。設計段階では、耐震安全性の確保のため地質調査を詳細に行い、地盤の特性に適した基礎形式を採用します。

また、本計画では建物内に書架や大型遊具を有しているため、耐震性に優れた書架配置(自立書架は低く、壁付けは角度をつける等)や遊具の配置(建物躯体と接続させる等)の工夫を目指します。

【構造種別】

計画する公共複合施設では、屋内遊戯場や開架スペースにおいて、大きな空間での計画が想定されます。また、平面計画によっては、子育て世代活動支援センターと多機能型図書館との間に遮音性や防振性が求められることが想定されます。

一般的な建築構造の種別と特徴は下表の通りですが、上記の留意点も踏まえて、それぞれの構造の長所や短所、耐用年数等を十分に考慮して基本設計時に最終決定する必要があります。

項目	鉄骨造(S造)	鉄筋コンクリート造(RC造)	鉄骨・鉄筋コンクリート造(SRC造)	木造(W造)
概要	耐震性・靱性に優れた剛性の部材を用いる構造	鉄筋とコンクリートの長所を生かし、耐震性に優れ、自由度も高い構造	鉄骨周りに鉄筋を配筋し、コンクリートを打ち込むことで、RC造とS造の長所をもつ構造	構造耐力上、主要な部分に木材を用いた構造であり、軽くて加工が容易な構造
主架構	大スパンには極めて有利 純ラーメン架構形式が可能 標準スパン 10m~20m	耐震壁を含むラーメン架構 標準スパン 10m 以下	耐震壁を含むラーメン架構 標準スパン 10~15m	大断面集成材やトラス構造の採用により大スパン構造も可能
基礎	比較的建物自重が軽く、基礎にかかるコストは低い	建物自重が大きく、基礎にかかるコストは高い	建物自重が大きく、基礎にかかるコストは高い	建物自重が軽く、基礎にかかるコストは低い
耐火性	耐火被覆材により耐火性能の確保が可能	コンクリート部により耐火性能の確保が可能	コンクリート部により耐火性能の確保が可能	燃え代設計により耐火性能の確保が可能
遮音性・防振性	比較的低いが、下地材や仕上げ材、鉄骨部材の対応で向上が可能。	遮音性能、防振性能に優れている	遮音性能、防振性能に優れている	比較的低く、音や振動等が伝わりやすい。(CLT等部材の厚みによって向上する。)
施工性・工期	工場加工した鉄骨を現地で組み立て、基礎工事と平行して部材加工が可能のため、工期の短縮が可能	鉄筋・型枠・コンクリート工事の繰り返しのため、工期は長くなる 天候・季節による影響が大きい。	RC造に比べ、鉄骨工事の期間分工期が長くなる	構法により、施工の難易度が変わるため、施工性と工期に幅がある。

第4章 運営・事業手法の検討

1. 運営の基本的な考え方

本市の中心市街地における中核複合施設として、市民へのサービスが円滑に供給され、長期間安定して活用される施設運営を下記の考え方により目指します。

(1)市民ニーズの把握

- ・子どもから大人まで幅広い年代に対し、継続的にアンケートを行うなど、サービスの維持・向上を目的とした市民ニーズの把握に努め、変化に対応できる柔軟性を持った運営に努めます。

(2)専門性のある多面的な運営

- ・本施設の多様な業務を円滑に推進するため、民間企業・団体、NPO等の人材・ノウハウ・専門性を活用し、多様で質の高いサービスを提供できる運営を検討します。
- ・司書資格を持つ専門職員の計画的な配置や、その他幼児への読み聞かせ等の専門的なスキルを持つ職員の充実に努めます。

(3)他機関等との連携による運営

- ・多種多様なニーズに対応するため、関係機関・団体等との連携を密にして、検証や改善を重ねながら、より良いサービスの提供を行います。

(4)ふれあいを重視した温かみのある運営

- ・ふれあいを重視した温かな対応で、多世代にわたる利用者が安心して訪れることができる運営を行います。

(5)安全・安心の確保

- ・緊急時の市民の安全確保と、市民が安心して利用できるような施設と周辺環境の整備・維持ができる体制づくりに努めます。

(6)維持管理計画

- ・サービスの質の高さは維持しながら、経費削減の取り組みを行う等、効率的な運営を行います。また、施設設備の経年劣化対策や大規模改修の時期をあらかじめ想定するなど、適切な維持管理の遂行に努めます。

2. 建設手法・管理運営形態の考え方

公立施設の管理運営形態として、自治体による直営方式と指定管理者等による委託方式、官民連携で整備等を行う PPP/PFI による手法が考えられます。

現在 PPP,PFI については、民間活力を利用した運営の導入可能性を調査しています。

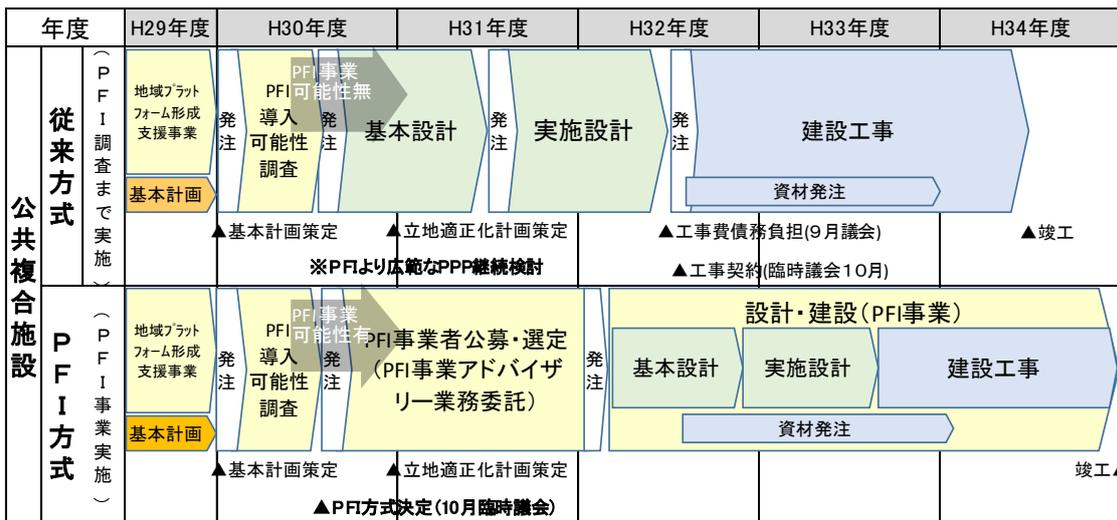
	従来方式	ECI方式	DB方式	DOB方式	PFI方式	リース
発注方式	分割発注		一括発注			
資金調達	役所				民間	

竣工までにかかる期間	◎ 短期間	○ 短期間	△ 厳格にする場合短期間	× 比較的長期間	× 長期間	△ 厳格にする場合短期間
建設工期の短縮	△ 分割発注なので工期短縮は限定的	○ 設計中の施工準備で工期短縮可能				
全事業の期間	○ 短期間	○ 短期間	△ やや長期間	△ やや長期間	× 長期間	△ やや長期間

民間活力の発揮	× 個別発注であるため期待できない	△ 施工方に工夫が必要な建物に関し期待できる	△ 施工方に工夫が必要な建物に関し期待できる	○ 維持管理を含んだ提案が期待できる	○ 維持管理を含んだ提案が期待できる	○ 維持管理を含んだ提案が期待できる
財政負担削減の可能性	○ 多くの民間企業の参画により競争性が確保出来ればコスト削減の可能性あり	× 積算見積りを行うのが技術協力をした施工一社になり競争原理が働かない	○ 設計施工一括発注による建設コスト削減の可能性あり	○ 従来方式より低価格となる可能性あり	◎ 民間のノウハウの活用(VFM算定)により事業費を大幅に削減出来る可能性あり	○ 従来方式より低価格となる可能性あり
市民意見や行政ニーズの反映のしやすさ	◎ 個別発注であるため各段階にあわせて意見を反映可能	△ 設計の段階から建設会社が関与し意見の反映が限定的	△ 設計と施工が一括の発注となり設計への市民関与は限定的	× 設計変更、意見反映の柔軟な対応が困難	× 設計変更、意見反映の柔軟な対応が困難	× 設計変更、意見反映の柔軟な対応が困難
リスクの高・低	高 発注者が全てリスクを負担	高 設計で建設会社が関与するためリスク分担を明確にする必要あり	低 民間事業者への一部リスクの移転により発注者のリスク負担が軽減	低 民間事業者への一部リスクの移転により発注者のリスク負担が軽減	低 SPCの設立により発注者のリスク負担が軽減	低 リース会社の設立により発注者のリスク負担が軽減

3. 施設整備スケジュール

平成34年3月のオープンを目指し、以下の3つの工程案におけるスケジュールを整理します。



社会資本整備総合交付金の補助対象期間(H31年4月から最長5年間)

以上の整理により、PFI方式を採用すると従来方式に比べ、設計の前段階で期間が必要となり、竣工までの期間が長くなります。施設整備の手法によって、全体の事業計画や予算にも関わってくるため、引き続き検討を進めます。